

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	CODO 外語観光専門学校
設置者名	学校法人弘堂国際学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務 専門課程	観光学科 国際観光ビジネスコース	夜・通信	160 時間	160 時間	
	観光学科 ホテルマネジメントコース	夜・通信	160 時間	160 時間	
	観光学科 アジア言語コース	夜・通信	160 時間	160 時間	
	IT(情報ビジネス)学科	夜・通信	160 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

「令和6年度シラバス」および「令和7年度シラバス」内に掲載し、図書室に備え付け公開
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	CODO 外語観光専門学校
設置者名	学校法人弘堂国際学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

「理事名簿」を作成し、図書室に備え付け公開
-----------------------

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	佐賀県議会議員	令和6年4月1日 ～令和8年3月31日	学校法人運営、へのチェック機能
非常勤	元佐賀県教育委員会	令和6年4月1日 ～令和8年3月31日	教育内容へのチェック機能
非常勤	建設会社代表	令和6年4月1日 ～令和8年3月31日	学校法人運営、財務内容へのチェック機能
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	CODO 外語観光専門学校
設置者名	学校法人弘堂国際学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、年度が始まる前の3月に講師会を実施する。その中で、授業における注意点や本校教育内容の共有を図る。また、教務部と各教科の担当教員が各教科の授業目標および授業計画についてすり合わせを行う。</li> <li>・各教科の担当教員は3月末までにシラバスを作成し、教務部へ提出する。</li> <li>・学生に対しては、年度初めにオリエンテーションを行い、「学生便覧」を配布する。成績評価の方法や進級条件を説明する。</li> <li>・「学生便覧」を学生に配布すると同時に、外部向けにも開放している図書室にも備え付け公開する。</li> </ul>	
授業計画書の公表方法	「学生便覧」を図書室に備え付け公開
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
本校学則記載のとおり、	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の成績評価は前期・後期の期末に行う。各科目の定期試験に、出席点・課題点を加えた合計点を評価対象としている。</li> <li>・各科目で、定められた出席時数に達していない者はその科目について評価を受けることができない。</li> </ul>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

・各科目の成績評価は、前期・後期に実施する定期試験を60%、出席点を20%、課題点を20%として合計点を評価対象とする。

判定	点数	評価
合格	100 ~ 80点	A
	79 ~ 70点	B
	69 ~ 60点	C
不合格	59 ~ 0点	D

の4段階評価とする。

・GPA算出時は、評点をA(3点)、B(2点)、C(1点)、D(0点)として、各科目の評点の合計を全科目数で割る。

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

「学生便覧」を図書室に備え付け公開

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

<ディプロマポリシー>

豊かな教養と専門知識・職業に必要な能力を習得し、活力に満ちた産業経済界の需要に応える。そして地元社会の発展に寄与し、グローバル化に即応する人材に対して卒業認定を行う。

具体的には、本学所定の課程を修了した者には、専門士の称号と共に卒業証書を授与する。学則に定める評定以上を合格として、合格に達しない場合は課題を課し、専門的知識の理解を深めた後に合格へと達した者には、専門士の称号と共に卒業証書を授与する。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

「学生便覧」を図書室に備え付け公開

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	CODO 外語観光専門学校
設置者名	学校法人弘堂国際学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	図書室掲示にて公表
収支計算書又は損益計算書	図書室掲示にて公表
財産目録	図書室掲示にて公表
事業報告書	図書室掲示にて公表
監事による監査報告（書）	図書室掲示にて公表

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	観光学科 国際観光ビジネスコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1792 単位時間／単位	1504 単位時間	288 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
	1792 単位時間／単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		67人	67人	6人	11人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 観光関連のカリキュラムに加え、英語や中国語といった語学力、情報ビジネスの知識を身に付ける。現代社会に求められる国際力を2年間で磨き上げ、グローバルな人材育成を目指す。 その為、1年次には空港やホテル、一般企業等においてインターンシップを実施し、早期の段階で就職に必要な課題を見つける場を作る。
成績評価の基準・方法
（概要） ・各科目の成績評価は、前期・後期に実施する定期試験を60%、出席点を20%、課題点を20%として合計点を評価対象とする。 ・A(100～80点)、B(79～70点)、C(69～60点)、D(59～0点)の4段階で評価を行う。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・本学所定の課程を修了した者には、専門士の称号と共に、卒業証書を授与する。 ・各学生の習熟度によっては課題を課し、専門的知識の理解を深める。

学修支援等
(概要) <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科・コースごとに担任制を設け、定期的な面談の実施や、事務職員と連携を取りながら、学生の学習意欲の向上・継続を図る。</li> <li>希望があれば個別の指導や相談にも対応し、着地点である就職や進学に向けてサポートをしていく。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100.1%)	1人 (6.3%)	15人 (93.8%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 宿泊業（ホテル、旅館）、サービス業			
(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>毎週、就職ガイダンスやビジネスマナーの授業を通して、就職に必要なスキルを身に付ける。</li> <li>個々の履歴書作成や面接指導といった、授業で補いきれない部分については授業後に個別指導を行う。</li> </ul>			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日本の宿おもてなし検定、グローバル人材ビジネス実務検定、TOEIC、文章入力スピード認定試験、日本語能力試験、手話検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
51人	4人	7.8%
(中途退学の主な理由) <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の事情、就職のため 等</li> </ul>		
(中退防止・中退者支援のための取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>担任による定期的な面談</li> <li>教員と事務職員の連携を常に図り、学生の小さな変化に気付く体制の実施</li> <li>毎日の夕礼で教職員が学生の状況を報告し、共有する。</li> </ul>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	観光学科 ホテルマネジメントコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1792 単位時間/単位	576 単位時間	320 単位時間			
			896 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		56人	56人	※6人	9人	15人	

※国際観光ビジネスコースの内数

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) ホテルで働くにあたって求められるホスピタリティや語学力を身に付ける。日本人観光客だけでなく、今後も増加が見込まれる訪日外国人にも対応できる人材育成を行う。1年次にはホテルでのインターンシップを経験し、就職に向けた意識づくりを行う。
成績評価の基準・方法
(概要) ・各科目の成績評価は、前期・後期に実施する定期試験を60%、出席点を20%、課題点を20%として合計点を評価対象とする。 ・A(100~80点)、B(79~70点)、C(69~60点)、D(59~0点)の4段階で評価を行う。
卒業・進級の認定基準
(概要) ・本学所定の課程を修了した者には、専門士の称号と共に、卒業証書を授与する。 ・各学生の習熟度によっては課題を課し、専門的知識の理解を深める。
学修支援等
(概要) ・各学科・コースごとに担任制を設け、定期的な面談の実施や、事務職員と連携を取りながら、学生の学習意欲の向上・継続を図る。 ・個々の習熟度の差に応じて時にはクラス編成を行う。希望があれば個別の指導や相談にも対応し、着地点である就職や進学に向けてサポートをしていく。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 （ 0%）	0人 （ 0%）	0人 （ 0%）	0人 （ 0%）
（主な就職、業界等） 宿泊業（ホテル、旅館）			
（就職指導内容） <ul style="list-style-type: none"> <li>毎週、就職ガイダンスやビジネスマナーの授業を通して、就職に必要なスキルを身に付ける。</li> <li>個々の履歴書作成や面接指導といった、授業で補いきれない部分については授業後に個別指導を行う。</li> </ul>			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本の宿おもてなし検定、グローバル人材ビジネス実務検定、TOEIC、 文章入力スピード認定試験、日本語能力試験			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
59人	3人	5.1%
（中途退学の主な理由） <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の事情、就職のため等</li> </ul>		
（中退防止・中退者支援のための取組） <ul style="list-style-type: none"> <li>担任による定期的な面談</li> <li>教員と事務職員の連携を常に図り、学生の小さな変化に気付く体制の実施</li> <li>毎日の夕礼で教職員が学生の状況を報告し、共有する。</li> </ul>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	観光学科 アジア言語コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1792 単位時間／単位	1472 単位時間	320 単位時間			
			1792 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	7人	0人	※6人	11人	17人		

※国際観光ビジネスコースの内数

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>観光分野の科目で旅行業、宿泊業を学びながら、1年次は韓国語と中国語を両方学ぶ。2年次はどちらかを選択し伸ばしていく。就職後の企業において、今後増えるであろうアジアからの観光客に対応できる人材を育成する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の成績評価は、前期・後期に実施する定期試験を60%、出席点を20%、課題点を20%として合計点を評価対象とする。</li> <li>A(100～80点)、B(79～70点)、C(69～60点)、D(59～0点)の4段階で評価を行う。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本学所定の課程を修了した者には、専門士の称号と共に、卒業証書を授与する。</li> <li>各学生の習熟度によっては課題を課し、専門的知識の理解を深める。</li> </ul>
学修支援等
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科・コースごとに担任制を設け、定期的な面談の実施や、事務職と連携を取りながら、学生の学習意欲の向上・継続を図る。</li> <li>希望があれば個別の指導や相談にも対応し、着地点である就職や進学に向けてサポートをしていく。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2人 (100%)	0人 ( 0%)	2人 ( 100%)	0人 ( 0%)
(主な就職、業界等) 空港、旅行会社、ホテル、旅館、百貨店など			
(就職指導内容) ・毎週、就職ガイダンスやビジネスマナーの授業を通して、就職に必要なスキルを身に付ける。 ・個々の履歴書作成や面接指導といった、授業で補いきれない部分については授業後に個別指導を行う。			
(主な学修成果（資格・検定等）) TOPIK、TOEIC、日本の宿おもてなし検定、文部科学省後援ビジネス能力検定ジョブパス、文書デザイン検定、情報処理技能検定（表計算）、観光手話			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・担任による定期的な面談 ・教員と事務職員の連携を常に図り、学生の小さな変化に気付く体制の実施 ・毎日の夕礼で教職員が学生の状況を報告し、共有する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	IT (情報ビジネス) 学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1792 単位時間/単位	736 単位時間	1056 単位時間			
			1792 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		56人	56人	2人	※5人	7人	

※観光学科の内数

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>情報処理を基本としたオフィスワークを身に付けていく。また、CAD やプログラミングのような専門的な授業を取り入れることで、就職先の選択肢を広げる。情報処理のみでなく、ビジネスマナーの授業を組み込むことでコミュニケーション能力を高め、効率の良いオフィスワークができる人材を育成する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の成績評価は、前期・後期に実施する定期試験を60%、出席点を20%、課題点を20%として合計点を評価対象とする。</li> <li>A (100~80点)、B (79~70点)、C (69~60点)、D (59~0点)の4段階で評価を行う。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本学所定の課程を修了した者には、専門士の称号と共に、卒業証書を授与する。</li> <li>各学生の習熟度によっては課題を課し、専門的知識の理解を深める。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科・コースごとに担任制を設け、定期的な面談の実施や、事務職と連携を取りながら、学生の学習意欲の向上・継続を図る。</li> <li>希望があれば個別の指導や相談にも対応し、着地点である就職や進学に向けてサポートをしていく。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9人 (100%)	0人 (0%)	7人 (77.8%)	2人 (22.2%)
(主な就職、業界等) 製造販売業、サービス業、専門・技術サービス業、飲食サービス業			
(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>毎週、就職ガイダンスやビジネスマナーの授業を通して、就職に必要なスキルを身に付ける。</li> <li>個々の履歴書作成や面接指導といった、授業で補いきれない部分については授業後に個別指導を行う。</li> </ul>			
(主な学修成果（資格・検定等）) 情報処理技能検定（表計算）、文書デザイン検定・プレゼンテーション作成検定、文章入力スピード認定試験			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37人	2人	5.4%
(中途退学の主な理由) <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の事情</li> </ul>		
(中退防止・中退者支援のための取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>担任による定期的な面談</li> <li>教員と事務職員の連携を常に図り、学生の小さな変化に気付く体制の実施</li> <li>毎日の夕礼で教職員が学生の状況を報告し、共有する。</li> </ul>		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
観光学科	150,000 円	650,000 円	110,000 円	教育充実費
IT(情報ビジネス)学科				
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 「自己評価」として刊行物を作成し、本校図書室に常備する。		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 地域の方や本校に関係する方々3名で構成し、学校関係者として定め、学校関係者評価委員会を設置し、開催する。本校の学校運営や教育方針、取組みをまとめたものを評価いただく。評価結果を基に学校長を中心とし、前期期間中に改善措置を講ずることによって、教育水準の更なる向上を図る。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
社会保険労務士	令和6年4月1日 ～令和8年3月31日	企業等委員
一般企業	令和6年4月1日 ～令和8年3月31日	企業等委員
元県庁職員	令和6年4月1日 ～令和8年3月31日	地域住民
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 「学校関係者評価」として刊行物を作成し、本校図書室に常備する。		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://codo.ac.jp/shugakushienshiseido/">https://codo.ac.jp/shugakushienshiseido/</a>
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H141320300057
学校名 (〇〇大学 等)	COD0外語観光専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人弘堂国際学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		一人（ 0 ）人	一人（ 0 ）人	一人（ 0 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	0人	0人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅱ区分	一人	0人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅲ区分	0人	一人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	0人	0人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				一人（ 0 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 <small>（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当）</small>		0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

年間	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
		0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1		0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)		0人	0人
GPA等が下位4分の1		0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。